

構造工学委員会「災害時の急速架設可能な緊急仮設橋に関する調査研究小委員会」  
委員の公募

土木学会構造工学委員会では、以下の研究小委員会を設置いたします。この小委員会に参加頂ける方を公募します。本小委員会の目的および内容は以下のとおりです。

<委員会名称>

災害時の急速架設可能な緊急仮設橋に関する調査研究小委員会

<委員構成>

委員長：宮崎大学 教授 森田 千尋

幹事長：一般社団法人日本建設機械施工協会 施工技術総合研究所 小野 秀一

委員：公募により募集

<設立趣旨，活動内容>

日本は地理的，地形的な条件から，地震・台風・豪雨・噴火等の自然災害が発生しやすい国土であり，近年は，首都直下地震や南海トラフ地震等の発生による広域被害も懸念されています。土木構造分野において，被災後の緊急を要する人命救助や孤立地域の早期解消といった観点，生活に関わる既設の中小規模橋の仮復旧といった観点などに立脚した，災害復旧や人命救助に特化した橋梁が必要であると考えられます。

そこで本小委員会では，現行の道路橋示方書等の基準までは要求しないまでも，緊急時には早期かつ簡易に仮設が可能な新しい橋のカテゴリーとして“緊急仮設橋”を定義し，災害による橋梁の被害状況に鑑みて，被災状況に応じた緊急仮設橋に求められる性能を取りまとめ，緊急仮設橋の設計や施工の規準整備に向けた技術資料の作成を行うことを目的とします。活動内容としては以下の内容を計画しています。

- ①様々な材料の適用を想定した緊急仮設橋の設計指針（案）の作成。
- ②海外で多く使用されている急速架設可能な橋の事例の調査と，それらの構造特性の把握。
- ③道路橋等の設計基準で規定される各種制限値を緩和することで生まれる構造的メリットの調査。

<活動方法>

本小委員会は，以下に示す活動方法での実施を予定しています。

活動期間：活動開始から2年間（2023年7月～2025年6月を予定）

開催回数：年3回程度の小委員会の開催

開催場所：主に土木学会会議室（東京）

活動方法：小委員会では活動の意義や方針確認を行い，具体的な作業はWGを設置し，それぞれのWGで行う予定。

交通費等の支給：旅費，交通費の支給はありません。

(※Eメールやweb会議等を活用した運営を予定していますので、遠方からの参加も歓迎いたします。)

<応募の方法>

本小委員会に委員として参加を希望される方は、(1)氏名、(2)所属・役職、(3)連絡先を明記の上、(4)応募理由(簡単で結構です。運営の参考にするためお伺いします)を添えて、下記の申込み先までE-mailで応募して下さい。なお、応募者数によってはご希望に添えない場合もございますので、あらかじめご承知おきください。

委員の専門分野としては、構造分野(鋼構造、木構造、複合構造など)、防災分野を主なターゲットと考えておりますが、国や自治体の防災担当者、材料・設計・施工業者、仮設業者の方々をはじめ、若手研究者や技術者からの積極的な参加を歓迎いたします。

<応募締切日>

2023年6月30日

<申込み・問合せ先>

〒417-0801 静岡県富士市大淵3154

一般社団法人日本建設機械施工協会 施工技術総合研究所 小野秀一

TEL: 0545-35-0212, FAX: 0545-35-3719

E-mail: ono@cmi.or.jp

以上